



新年のご挨拶

小千谷さくら病院 院長 山崎 元義

あっという間に平成最後の年が過ぎ、新しい年を無事迎えることができました。小千谷さくら病院も開院して18年が経過しました。小千谷地域だけではなく広く中越長岡、魚沼、湯沢、十日町、津南、柏崎方面の患者様を積極的に受け入れてきましたが、今後とも同地域の神経難病の基幹病院としてしっかり対応できる体制を維持し、社会に貢献していきたいと考えております。職員の皆様のご協力を今後ともお願いいたします。



一昨年に赴任して、褥瘡患者が非常に少ないこと、肺炎の発症がまれであること、に大変驚きました。このことは日頃の体位変換や口腔ケアが、職員の皆様により、しっかりとされている結果であろうと思います。これは県内の他の大病院にも負けない誇るべき現場の力です。

今年も昨年に引き続き摂食嚥下機能に重点をおいた医療を目指します。食べる楽しみを可能な限り奪わないために、何ができるか考えていきます。また昨年はユマニチュードについても勉強していただきました。技術を学び知識をふやしつつ、あせらず、ゆっくりと進めていきたいと思っています。

今年にはさらに他病院との連携や協力交流も考えていきたいと思っています。まずは医療安全と感染対策の面で、すこしずつ実現させていきたいと思っています。

職員の皆様にも役立つような企画を考えていきたいと思っています。医局からの発信も、もっとしなければならないと考えています。

第一、第二病棟の改築が現実問題として議論されています。働きやすい環境を皆さんと共に築きあげていきますので、協力をお願いします。

昨年私はこの小千谷の地から、世界に発信する医療、看護、介護を目指したい、という大きな目標をかかげました。日本の将来の医療がどのようになるかは不透明ですが、医療現場の問題は世界共通の問題です。人が、人間らしい人生をまっとうできる場として、小千谷さくら病院がいいモデルとなり、患者様やご家族、地域に評価していただけるよう、私自身も全力で頑張っていくつもりです。パーキンソン病患者は今後も増加の一途です。進行した神経難病患者に対して、職員すべてのお力を発揮していただきますよう、お願いいたします。

※ユマニチュードとは・・・「見る」「話しかける」「触れる」「立つ」の4つの柱を組合せ患者様の「人間らしさ」を尊重し向き合うケア。

小千谷さくら病院の理念

自分なり家族や友人が利用したい病院づくり

新年を迎えて、病棟看護長からの抱負

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は「食べる楽しみ」を少しでも長く感じて頂けるように、患者様の状態に合わせた食事形態や方法を繰り返し検討し支援してきました。また、気持ちのこもった挨拶や声掛けに努めてきました。

今年はその継続と、年末に学んだユマニチュードの理解を深め、正面から向き合い視線を合わせる、話しながら関わる、優しく触れる、立つことへの援助がチームで少しでも実践できるようになりたいと思います。また、昨年から毎朝病院理念の「自分なり家族や友人が、利用したい病院づくり」を全員で唱和しています。職員はじめ患者様やご家族、地域の方に信頼され愛される病院づくりをしていきます。

今年もよろしくお願い致します。

1病棟 看護長 小杉 良子



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当病棟は、食堂で食事を摂る患者様が今までになく多く、認知症の方も増え、対応に苦慮する場面もあります。しかし、昨年院内でユマニチュードについて勉強する機会を得て、病棟でも学んだ事を少しずつ実践していこうと努力しています。その為にも、今年は患者様・御家族と、そして職員間に於いてもコミュニケーションをしっかりと取るということを心掛けていきたいと思っています。個別性のある援助をする為に思いを聴いたり、安心安全な療養環境を提供できるよう確認・伝達ミス無くす為にも、とても重要と考えます。

また、昨年に引き続き患者様の「食べたい」という思いを嚥下状態に合わせ、医師・栄養士・リハビリ職員と共に支援していきたいと思っています。

まだまだ至らぬ所も多々ありますが、少しでも満足感が得られる療養生活を送って頂けるよう職員一同努力していきますので、忌憚のない声も頂ければと思います。

2病棟 看護長 大塚 明美



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

3病棟は、神経難病の方が8割以上入院されている病棟です。病院の「自分なり家族や友人が利用したい病院づくり」の理念に少しでも近づけるよう日々、努力をしています。

昨年は、病院目標に掲げられたユマニチュードをメンバーが行ったリーダーシップ研修をきっかけに、認知症患者様をより深く理解しようと、取り組むことが出来ました。他にも、長期の入院生活で季節を感じてもらえるようなレクリエーションなども行ってきました。

毎年、秋に行なっている「焼き芋会」は、春に植えたさつまいもを収穫し、1ヶ月間、新聞紙でくるんで寝かせると甘さが増して、患者様に大変喜んでいただいております。

今年もスタッフ全員が、物事を相手の立場になって考えられるよう、そして患者様やご家族の思いに寄り添っていけるよう努めていきたいと思っています。何かお気づきの点がありましたら、いつでもお声を掛けて頂ければ幸いです。

3病棟 看護長 五十嵐 直子



第14回 院内研究発表大会

毎年恒例となりました院内研究発表大会が11月28日（水）に開催されました。

其々が日常業務より、専門職としての視点から問題意識を持ち課題を決めて取り組んだ成果として以下の6題が発表されました。

1. 保湿剤と洗体による皮膚表面の水分量維持 1病棟（介護）
 2. 繰り返す皮膚トラブルの改善と予防 1病棟（看護）
～コラーゲジュフルフルを使用して～
 3. 過去の事例から安全への意識を高める 2病棟（看護）
～職員間の連携により転倒・転落ゼロを目指す～
 4. 感染性廃棄物の削減に向けた取り組み 2病棟（介護）
～職員の意識が変化することで廃棄物の削減に繋がるのか～
 5. 感染予防に向けた擦式アルコール、
手洗いの意識付けと使用方法の改善の取り組み . . . 3病棟（看護）
 6. 集団リハビリの在り方の変更と改善点 リハビリ（理学療法士）
- 各発表とも患者様がより良い入院生活を送って頂くための内容であり、業務改善に繋がる価値のあるものでした。

また、当日は医局から、「さくら病院における剖検について」の講演があった他、11月15日（木）にも看護部主催の勉強会で、「病理解剖で得られた検査所見」に関する講演が行われるなど、2018年は改めて「医療の知識を学ぶ」機会が多かった年ではないでしょうか。

今後も医療従事者として質向上に努めるため、積極的に勉強会を開催し次回の研究発表大会に繋げていく事を期待します。

機能向上委員会（事務長） 中山 克成



毎年、介護予防普及啓発事業の講師をしています！

毎年リハビリ室では、小千谷市の地域に出て介護予防事業を行っています。理学療法士は、9月19日～10月22日の計4回、デイホーム千谷と片貝に訪問し講習を行いました。

私はデイホーム片貝で、介護が必要になる原因は高齢による衰弱や、転倒・骨折が多いことを伝え、予防法として手軽にできる運動とストレッチを紹介しました。講習中には「私は膝が悪い」「〇年前に膝の手術をした」等の声が挙がりましたが、実技では無理のない範囲で紹介した運動を行っていただきました。参加された皆さんはとても元気が良かったのですが、中には耳の聞こえにくさから参加を遠慮してしまう様子も見られました。

高齢者が虚弱や老衰になる原因の一つに、聴力の低下、体力がない等の身体的な問題で対人交流に消極的になってしまう方もいるそうです。昨年の介護予防事業であったことを振り返りつつ、参加される方が、物怖じせずに身体を動かせる会にしたいです。



理学療法士 仲丸 葵

陶芸に Let's Try !!!

若林先生のご指導のもと、患者様とリハビリスタッフで陶芸を行いました。「腰が痛い」と訴えていた患者様も、陶芸を行うことをお伝えすると、「陶芸なら出来ると思う！」とやる気満々！！とても人気の高い活動の一つです。

「こんな感じにしてみようか」「ここに飾りをつけたほうがいいかなあ？」と、周りと一緒に和気あいあいと相談しながら作る方。職人のような真剣な表情で、周りの声も聞こえないほど集中して作る方。そんな患者様の様々な表情が見える楽しい時間でした。

陶芸は土練り→成形→素焼き→施釉→本焼きと準備や作成に時間のかかる活動です。実際にみんなで集まって活動を行うのは成形と施釉の二回ですが、活動以外の時間も患者様と一緒に作品に思いを馳せ、完成までの待ち遠しい気持ちを長い間共有できることも、陶芸の楽しみの一つのように思います。今回は一輪挿しや皿など14点の作品が完成しました。中には残念ながらヒビが入ってしまったものもありましたが、ヒビの上からビニールテープを貼り、一工夫。素敵な模様に変身しました。これからも患者様とたくさん楽しみを共有していけたらと思います。

作業療法士 金子 沙弥香



編集後記

冬季スポーツシーズンに入り、行われたフィギュアスケートグランプリファイナル。金メダルに輝いた紀平梨花選手の活躍は素晴しかったです。滑りはもちろんですが、失敗に対して苛立たず、謙虚に受け止め振り返る姿勢は素晴らしく、しっかり結果を出している。見習いたいところです。私共も日々振り返りを行い、患者様に安心、安全、安楽に過ごしていただけるよう努めています。患者様に実感していただけるよう更なる努力をしていきたいと思っております。

今年も宜しくお願い致します。

(篠田 記)



社会福祉法人長岡福祉協会
小千谷さくら病院

〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田2732番地

電話(代表) 0258-83-2680

FAX 0258-83-4416

URL <http://www.sakurahp.com>

E-mail info-01@sakurahp.com

広報委員 中山 克成・原 智史・篠田 由江
下村 健・小林 由華・伊佐 純子